

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
ジャルダン 兵庫教室		2025年 3月 20日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	学習や運動など、活動内容により部屋を使い分けている。	一部屋に集中すると狭くなる時がある為、分かれるようにしている。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		事前に利用人数を把握し、職員の配置数が適切になるようシフトを組んでいる。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	2	学習スペースは机を置き、運動スペースはトランポリンを置くなど視覚的にも分かりやすくしている。	高い段差があるが、側で見守ったり声を掛けたりしながら過ごしている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		毎日利用児童と掃除をすることで、児童にも清潔な環境だと認識してもらっている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	3	必要に応じて職員が連携を取り、個別の環境になるよう工夫してはいる。	区切られた空間がない為、パーテーション等を検討中。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		毎日朝礼を行い、業務連絡・支援内容の確認など話し合いの場を設けて全職員に周知できるようにしている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		自己評価表を配布し回収することで保護者の意向を把握している。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		毎日の朝礼で職員の意向を把握し、業務改善に繋げている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8		第三者による外部評価については今後の課題として検討していく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	8		全体会議内で研修を行ったり、個別でも研修を受講する機会を設け、資質の向上に努めている。	
11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		作成済み。HPにて公表予定。		
12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		事前にアセスメントを行い、課題を把握することで、よりよい支援ができるような計画を作成してはいる。		
13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		話し合いの場を設けることで、しっかりとした情報共有ができるようになっている。		
14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		個別ファイルを作成し、いつでも情報を確認できるようにしている。		
15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		適応行動をバランスよくみにつけられるよう、その都度職員間で話し合いを行っている。		

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		様々な情報を把握するために、見学や契約時に詳しく聞くようになっている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		毎月会議の場を設け、職員一人一人の意見を出し合い、話し合いを行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		職員間でより良い支援をすることができるよう話し合いの場を設けている。長期休み中は室外イベントも計画するようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		支援計画をもとに、個別と集団を組み合わせながら支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		支援開始前の打ち合わせのほか、その都度職員間で声掛け等連携を行いながら支援をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		送迎終了時間が担当児童によって違うが、重要事項は必ず責任者に伝えている。職員間は次の日の支援前までに必ず打ち合わせをしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		支援内容は記録し、気になったことは職員間で周知している。また、周知した内容を検討している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		6か月以内にモニタリングを行い、計画の見直しをしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	8		職員と意見交換をしながら、複数読み合わせて支援をしている。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		子どもの状況に合わせて支援することで、子どものやる気を引き出す声掛けや活動内容を工夫している。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		子どものことをよく理解した職員が参画し、会議の内容は後日全職員に伝えられている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		重要事項説明書に協力医療機関等を記載するなど連携を行う体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		送迎時に学校での様子や行事等の情報交換を積極的に行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	8	必要に応じて保護者に連絡をし、それぞれの園や事業所等との間で情報共有の場を設けている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		8		移行した子どもはいないが、その場合は情報共有をしていく。
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		8		センターとの連携はないが、今後検討していく。	
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	5	施設全体での交流はまだないが、公園等で遊んでいる子どもたちとの交流はある。	施設としての交流はないが、系列の施設と連携していきたい。	

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		8		参加していないため、今後していきたい。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。		8		送迎時に情報交換を心掛けて行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		8		行っていない為、機会を作りたい。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		8		契約や見学時の説明にて行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		8		保護者から意向を聞き、計画に取り入れ面談等で確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		8		定期的に面談を行い、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		8		悩み相談がしやすい状況や環境をつくることを心掛ける。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		8		保護者会等、開催していきたい。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		8		複数のSNSの活用、必要時電話や面談の受付も行っている。子どもからのサインを見逃さず、話を聞く機会を設けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		8		イベントの様子などの報告と合わせて、SNSに写真や動画で作ったものあげている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		8		面談にて個人情報取り扱いについて説明し、職員も気を付けている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		8		複数のSNSの活用、必要時電話や面談の受付も行っている。イラストや写真を用いてコミュニケーションを取っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8		地域住民とのかかわりがあまりない。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		8		マニュアルをそろえ、定期的な訓練を行い、対応をしている。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		8		計画のもと、研修訓練を定期的に行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		8		面談時に確認し、必要に応じて詳しい説明を保護者から聞いている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		8		面談日に家族にアセスメントシートを記入してもらい、詳細を確認している。	アレルギー児はまだいない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		8		危険があった際の報告をその都度行い、検討している。	

応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		見学時や面談時に周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		危険がないか予測することを習慣化するように心掛けている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		虐待防止のみゆあるを読み合わせたり、研修を開催したりしている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		職員で話し合い検討する機会を設けている。	実施はまだない。